

一老人病院における給食実態調査 (第一報)

医療法人 新川病院

飛世 栄子, 高本 富子, 本吉 稔
永崎 みのる子, 越山 健二, 平井 美枝

I はじめに

高齢者の増加とともに急速に迎えた高齢化社会は、その対応が遅れ、患者の実態や食事などについての報告が少ない。私たちは魚津市大光寺の老人専門病院、医療法人新川病院の入院患者の実態と給食の実際を調査してみた。

II 調査の時期と調査項目

調査は、昭和59年11月に入院中の患者について次の項目で実施した。

。性別。年齢。地域。職業。歯牙の状況。排便の状況。摂食の状況。嗜好調査などで患者へのアンケート及び看護日誌も参考にした。

III 調査内容

① 患者数

145名のうち、男性51名(35%)、女性94名(65%)であった。

② 年齢及び職業

70歳代73名、80歳代41名、60歳代20名、90歳代7名、50歳代3名、40歳代1名で、平均年齢は77歳であった。

発病前の職業は、農業45名、サラリーマン24名、日稼ぎ22名、教員8名、和裁6名、漁業5名、美容師5名、大工3名、その他27名であった。

③ 歯牙の状況

歯牙欠損し咀嚼が不十分なもの71名(49%)、義歯38名(26%)、咀嚼が可能なもの

36名(25%)で、患者の4分の1のものが歯牙欠損しており、約半数のものが咀嚼が困難であった。

④ 排便の状況

全般に便秘者が多く、排便を気にしており、便秘を訴える患者が多い。

排便を促すために投薬(服薬、坐薬)による患者は平均70名(48%)である。

⑤ 摂食介助

自分で摂取75名(52%)、全介助43名(30%)、一部介助15名(10%)、経管栄養12名(8%)であり、片麻痺、パーキンソン、リウマチ等、身体的な損傷のため、半数ちかくの患者は何らかの介助を必要とする。

⑥ 嗜好調査の結果(表を参照)

1. 魚、肉、卵、大豆製品のうち、一番好きな食品は何ですか?

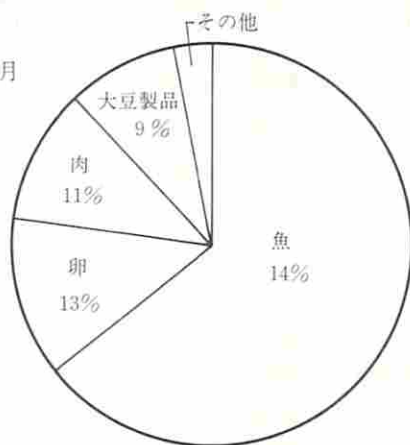
魚が一番多く85名(64%)、卵17名(13%)、肉15名(11%)、大豆製品12名(9%)、回答なし4名(3%)。

2. どんな料理にしたものが好きですか?

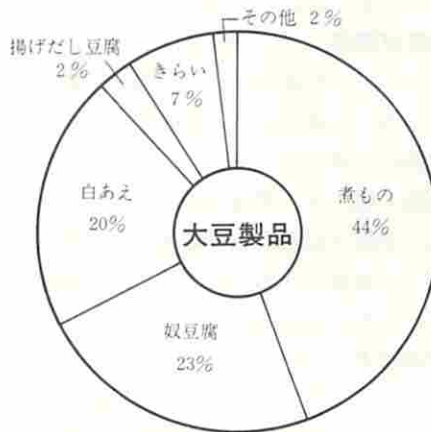
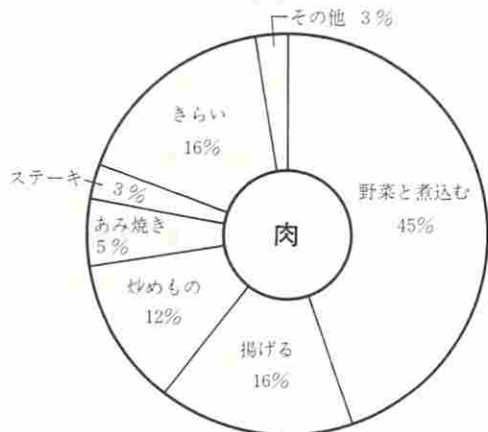
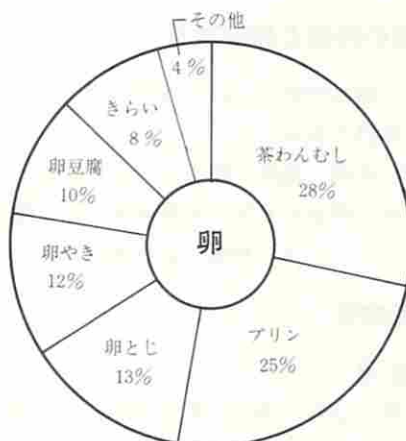
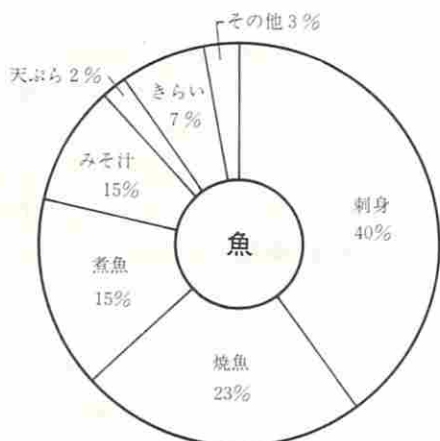
魚では刺身53名(40%)で最も多く、卵では茶わんむし38名(28%)、プリン34名(25%)、肉では野菜と煮込む60名(45%)、大豆製品では煮もの59名(44%)で、全般に煮物が多く、油の多い洋風のは好まれないようであった。又赤飯、五目めしなどが喜ばれ、めん類ではそうめんのおつゆ、うどん、そばなども食欲がすすむようである。デザートでは果物、プリン、コーヒーゼリー、水だんごも好まれる。

1. 一番好きな食品は何ですか。(経管栄養を除く)

調査人数 133名
調査年月日 59年12月



2. 各食品でどんな料理にしたものが好きですか。



IV 献立と調理法

献立は主として和風とし、時には西洋風、中華風のものも入れている。

11月分の普通食（常食）患者年齢構成表及び荷重平均栄養所要量表によると、エネルギー 1,440カロリー、蛋白質59グラムであった。これにより作成した食量構成表では、魚・80グラム、肉・20グラム、卵・20グラム、緑黄食野菜・60グラム、その他の野菜・180グラム、大豆製品・60グラムである。1週間に5～6回は主菜が魚料理であり、そのうち刺身が2回、焼魚、煮魚、揚げ魚となる。又3回は煮ものとしている。

調理法は、特別変わったことは行っていないが、材料の切り方は小さく、又加熱して柔らかくなるようにしている。揚げ魚でもフライは衣が固くなるので天ぷら、又はから揚げにする。刺身がそのまま食べられない患者にはタタキにする。刺身のきれいな患者には煮魚を作る。

普通食（常食）は、わずか25名(17%)。特異なものは、きざみ食38名(26%)、ミキサー食65名(45%)、流動食5名(4%)、経管栄養12名(8%)である。きざみ食は、仕上がった料理をさらに庖丁で細かく切り、盛付をする。ミキサー食は仕上がった料理をミキサーにかけて粉碎して作る。

副食が3品のときは別々にミキサーにかけ、それぞれの器に盛付をする。煮ものなどは5種類の材料を使うが、その材料ごとに粉碎し、盛付のときに色彩を楽しめるようにしている。魚はミキサーにかけるとより生臭くなるので骨を取り除いて身をほぐし、きざみ食、ミキサー食と一緒に盛付をする。

V 老人給食の特徴とその対策

① 歯牙欠損のため咀嚼障害

きざみ食、ミキサー食

② 嚥下機能低下による嚥下障害

経管栄養、おもちゃなどを出さない。

③ 腸管運動機能低下による便秘

野菜、せんい性食品

④ 脳血管障害等による意識障害

経管栄養

⑤ 身心の障害により摂食に介助を要する。

⑥ 嗜好の片より

患者は主として明治、大正生れの人でひとりひとりの食生活史があり、嗜好のかたより、嗜好調査をする。

⑦ 異常な食思亢進と食思不振が存在し、中には拒食症もあり、介助に苦勞する。

⑧ 食事がたのしみであり、おやつ（補食）も重要なものと思われる。家族の見舞も多く（特に甘いものが多い）病院では、牛乳、ヤクルトを出している。

VI まとめ

当院に入院中の患者はすべて高齢者で、その多くは寝たきりです。ADL（生活基本動作）では、すべて何等かの介助を必要とする人たちで、他の一般病院とは医療の内容は勿論、給食においても大きな差異があると思われる。全般に恢復、治癒が困難で、絶望感から無気力、無関心になり易くなるが、食事に対する欲求は強いものがあり、できるだけ喜んで食べてもらえるように配慮を重ねている。このような中で行なった嗜好調査では、多くの人は不満も少なく、満足しており、特に要望もないようである。しかし中には頑固な食思不振や拒食症の症例も少なくない。今回は老人病院給食の現況を歯牙欠損、便秘、簡単な嗜好調査をもとに報告したが、今後さらに検討を重ね、老人給食の問題点等について調査研究を深めたいと思う。

<参考文献>

特殊栄養学：澤崎千秋等共著 光生館

病弱者栄養：連水 洪等共著 光生館

食の病理と治療：下坂幸三 金剛出版

精神医学入門：西丸四方 南山堂

食欲の科学：河村洋二郎 医歯薬出版

給食献立の理論と実際：西村 薫 臨床栄養 37

(5) 526 1970